



大河 正明

びわこ成蹊スポーツ大学
副学長

日本一を目指して

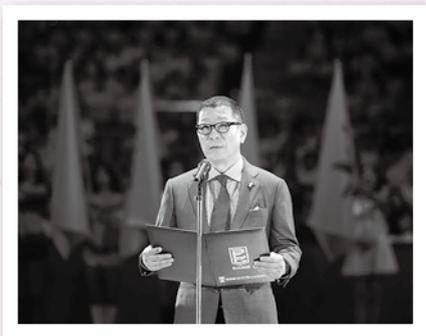
「人生において日本一になるチャンスなんて滅多にないぞ」と語った木村先生の言葉を今でも鮮明に覚えている。何の恩返しもできないまま、15年以上前に帰らぬ人となられたが、B.LEAGUEが誕生しチェアマンとして開会宣言を行ったことで、少しは許してもらえたのだろうか。

1973年の夏、京都府と近畿地区の予選を勝ち進み、いわゆる「全中」と呼ばれる全国中学校バスケットボール大会に副主将として出場した。結果は2点差で準決勝敗退。その後個人でも団体でも日本一になったことはない。ただ一つ、B.LEAGUEを日本一のプロリーグにという夢は今でも持ち続けている。

母校の洛星中学校・高等学校は進学校として有名だが、文武両道で水泳部・バドミントン部・ハンドボール部・野球部なども強かった。人を押しつけてでも自分が上に行くという発想はなく、おおらかで自由な校風が特徴。良い学校だったと思う。

部活でのちょっとした自慢がある。一つ目は、練習が週三日と徹底した短期集中方式の中、全国ベスト4の結果を出せたこと。今でもダラダラと続く会議に耐えられないのはそのためだと思う。二つ目はパワハラと無縁だったこと。スポーツ界のインテグリティやガバナンス不足に人一倍敏感で、何とか良い方向に変えたいとの思いは強い。最後に代々木第二体育館。当時のバスケの聖地で試合ができたこと。子どもたちが憧れる令和の「夢のアリーナ」が早くほしい。

現在にご縁をいただいた「びわこ成蹊スポーツ大学」をメインとしつつ、「大阪成蹊大学スポーツイノベーション研究所」にて、社会人向けアカデミーを開講する日々である。少子化や子どものスポーツ離れが言われて久しい。スポーツは「する」のも「見る」のも楽しいもの、人と人がつながれるもの。いつの日かどの競技でもいいから、大学日本一の瞬間を見たいものである。



筆者の中学校時代とB.LEAGUE開会宣言 (右写真)